

船員教育

当社の船員数は約11,400人(2009年3月末時点)を数え、運航船の増加に伴って今後とも漸増していきます。安全かつ良質な輸送サービスを提供するには、当社の求める技能水準を満たす優秀な船員をいかに安定的に確保していくかが、大きな鍵となります。良質な船員作りを目指した当社の船員教育・訓練への取り組みをご紹介します。

実力と帰属意識が伴った船員を養成するために

当社は2007年から、大型の訓練専用船を導入し“*Spirit of MOL*”と名付けて自社のカリキュラムによる航海訓練を開始しました。一度に、5~7ヶ国の職員候補生(Cadet)約180名を対象として、主にフィリピン近海を航行しながら、当社船での経験豊富な乗組員と厳選された専属教官とが4~6ヶ月の間、安全教育と基礎訓練を集中的に行います。彼らCadetは、船上で多国籍の仲間との共同生活を通して、専門の海技知識に加えて、当社船員としての誇りや連帯感を高めていきます。この、民間海運会社としては画期的な試みは、シーマンシップ育成の成果が高く評価され、2008年度においてはロイズ・レジスター・フェアプレー社が主催する国際海上安全賞2008(訓練部門)を受賞しました。

また、2008年夏、*Spirit of MOL*は台風被害を受けたフィリピンの救援活動に参加しました。同国政府の緊急援助物資の運搬と、水害を受けた公共施設の現地復旧作業に従事し、フィリピン大統領府から感謝状を授与されました。当社船員を最も多く輩出するフィリピンの災害救援に直接に貢献できたことは、当社の社会的責任を果たしたばかりでなく、Cadetにとっても船上とは異なる環境で人道支援を通じて道徳心と連帯感を強める機会となりました。



Cadetは、*Spirit of MOL*での基礎訓練を終えたのち、当社運航船に乗船して実践訓練を受けます。運航船上では、長年の経験と高度な技術を有する船長以下の職員が、Cadetに実際の運航や荷役を体験させ、的確な判断力と当社が培ってきたノウハウや職業倫理を伝承しています。船上での教育環境を一層整えるため、新造船については船員居室の増設を行って、Cadetの受け入れ人数の拡充も図っています。こうして、訓練船と自社運航船を併用する育成プランにより、確かな基礎知識と安全意識、応用力と即戦力を身に付けたMOL船員が誕生していくのです。



一方、陸上では休暇中の船員向けに世界6カ国(日本・フィリピン・インド・モンテネグロ・インドネシア・ロシア)でトレーニングセンターを運営し、各種の教育訓練を行っています。また、主要船員供給国の海事系大学と提携して職員候補生プログラムや奨学金制度を提供して、優秀な人材の育成に努めています。

家族とともに

当社船員が何ヶ月にも亘る乗船勤務に専念するためには、家族の理解と協力が不可欠です。海外のマンニング(船員配乗)事務所では、船員の家族が当社と情報を共有し、永年勤続表彰と一緒に食事やイベントを楽しむ「家族会」を定期的開催してMOLファミリーの結束を強めています。船員と家族を一体として支え、「MOLグループの一員」という連帯感を育むことで、当社船の安全運航をさらに強固なものとしています。

